

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

|          |                        |               |       |
|----------|------------------------|---------------|-------|
| 機 関 名    | 東北大学                   | 整理番号          | M01   |
| プログラム名称  | グローバル安全学トップリーダー育成プログラム |               |       |
| プログラム責任者 | 山口 昌弘                  | プログラムコーディネーター | 湯上 浩雄 |

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、優秀な学生を選抜し、金平糖型のグローバル・リーダーへと導く学位プログラムが構築され、またグローバル安全学教育研究センターの設置により、教育体制や生活環境が整備され、留学生を含むプログラム学生への教育効果が大きかったことは評価できる。一方、安全学は文理融合型の学術分野であり、「実践的防災学」と「総合科学」の視点から、個々の研究関連領域の境界を越えた博士学位論文が作成されたとは必ずしも言えず、従来の研究科の枠を超えた研究指導体制への変革が期待される。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、多くの修了者が、C-Lab 研修やインターンシップ、学生自主企画活動としての実践活動を通して、俯瞰力や独創力、コミュニケーション能力等が向上したことを実感しており、また、修了者の約 40%が民間企業に就職したことなどは評価できる。一方、国際機関に職を得た者はおらず、就職した民間企業において、本業との関係から、本プログラムのキャリアが活かせることができるかどうかについては疑問が残り、新たな起業にも結びつくような研究・研修実績を重ねることが期待される。

事業の定着・発展については、横断型学位プログラムを学内に展開するための学位プログラム推進機構を創設し、全学的な支援の下で組織的な継承と財政的な支援を行う体制が提示されており、その中で、災害科学・安全学国際共同大学院プログラム「グローバル安全学コース」を開設し、本プログラムを継承しようとしていることは評価できる。一方、準備されている予算額の観点並びにこれまでの研究科中心の研究指導体制を維持したまま、新たな横断型学位プログラムが展開するかは疑問であり、仙台防災枠組や持続可能な開発目標（SDGs）等への準拠や文理融合の促進等も含めた新たな大学院研究組織の構築の実現が期待される。